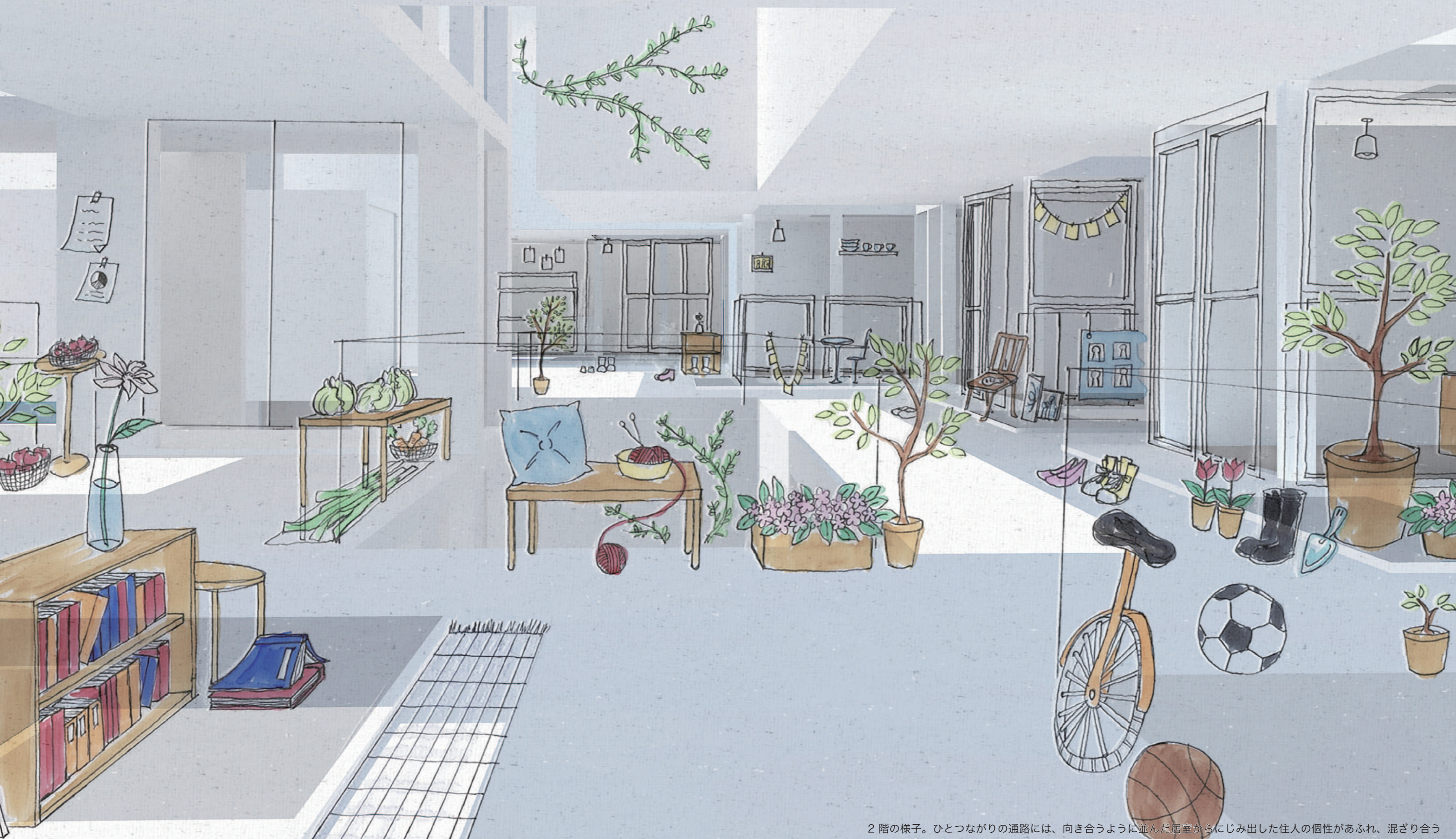


# やわらかに紡ぐ家

自然災害に対応できるコミュニティの形成を想定した集合住宅を与件とし、環境性能の視点から再設計を行う。住民と住宅の結節点となる「管理人さん」に着目し、人々の手・建築の余地が一体となった住まいを提案する。



2階の様子。ひとつながりの通路には、向き合うように置いた家具からにじみ出した住人の個性があふれ、混ざり合う



L字を重ねた1つのユニット。上下に抜けるヴォイドを囲みながら開く



敷地を2分する道。入り組んだ商業空間が通りすがりの客を奥へと誘う



商業空間は開きの外へにじみ出し、開放的なカフェテラスにもなる

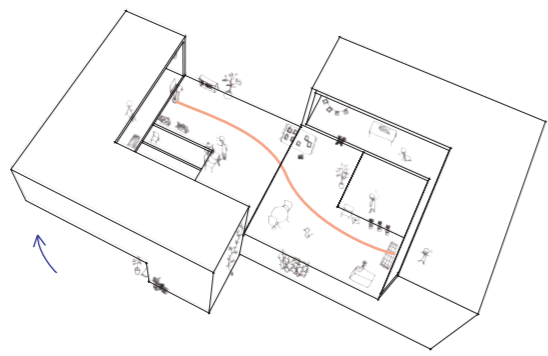


2階は外部からは閉じられ、相対的に1,3階の庭は外に開かれる

## 3年前期 建築設計 B I

### Step1: かこってひらいてつむぐ

「様々な外力からの弾力性」をキーワードに柔らかい集合住宅を考える。輪で囲われた個別の居住空間を少しだけ開いて紡ぎ合うことで、すきまから**住民だけの共有階**に人の個性がにじみだすかたちを提案した。

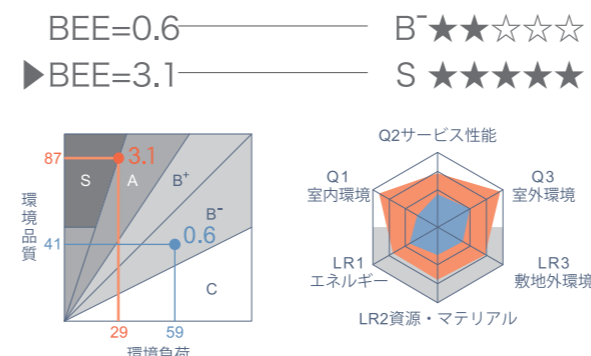


## 4年前期 建築環境デザイン

### Step2: 環境改善の再解釈

発電システムや最新設備機器の導入をしても災害時には人々の生活を確保しきれないと考えた。そこで、**管理人さんを中心とした住民間の交流を創造するというソフトな取組み**から CASBEE 評価の改善を狙う。

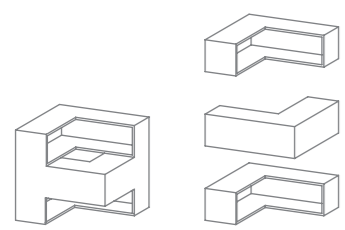
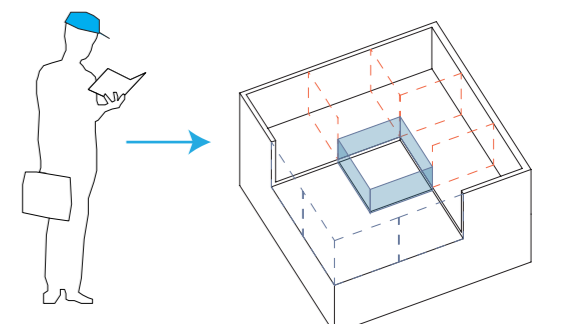
### CASBEE による環境性能評価



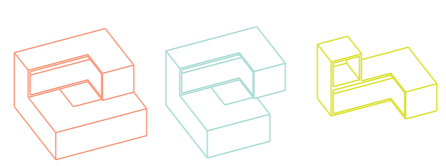
## Kerkythea, FrowDesigner を用いたシミュレーション

### Step3: 余地を持つかたちへ

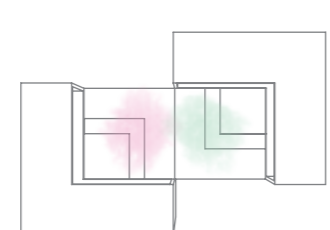
環境の変化や住民の要求に対応して管理人さんが建築環境を操作できるように**切り替え可能な仕組み**を加えた。解析を行うことで適切な構成・手法を明確にし、管理人さんの作業の単純化・効率化を試みた。



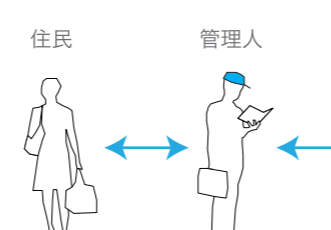
1ユニットはL字ボリュームが重なっているもので、2世帯の輪をつくっている



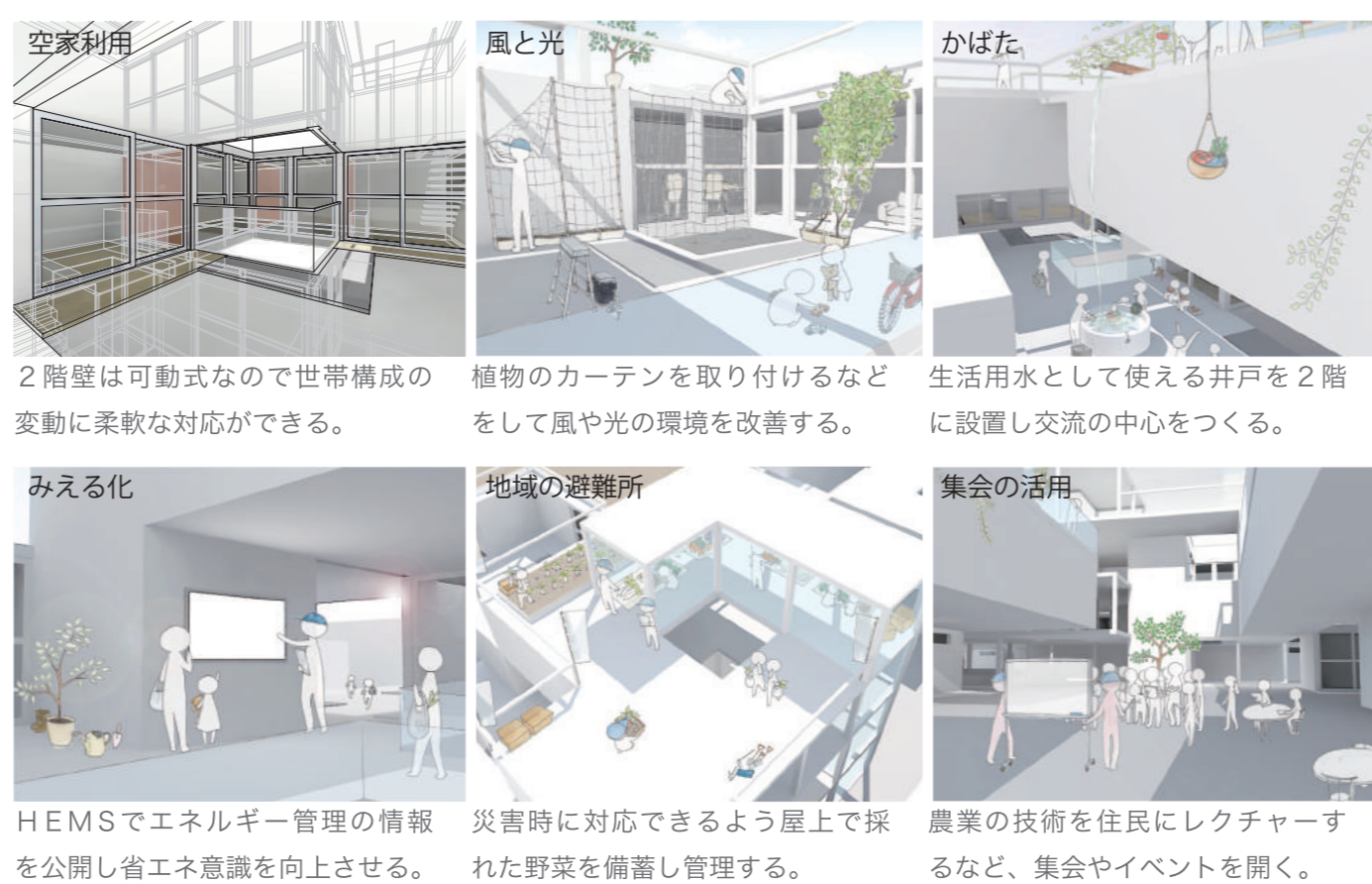
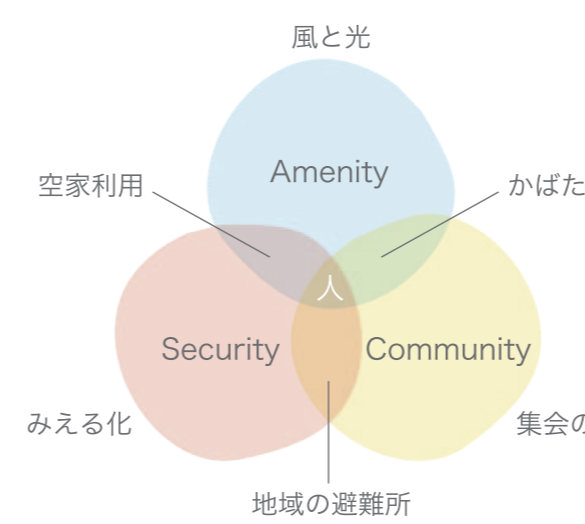
1世帯の大きさは住民数に依るが、2階に必ず調理・食事の場を持つゾネット



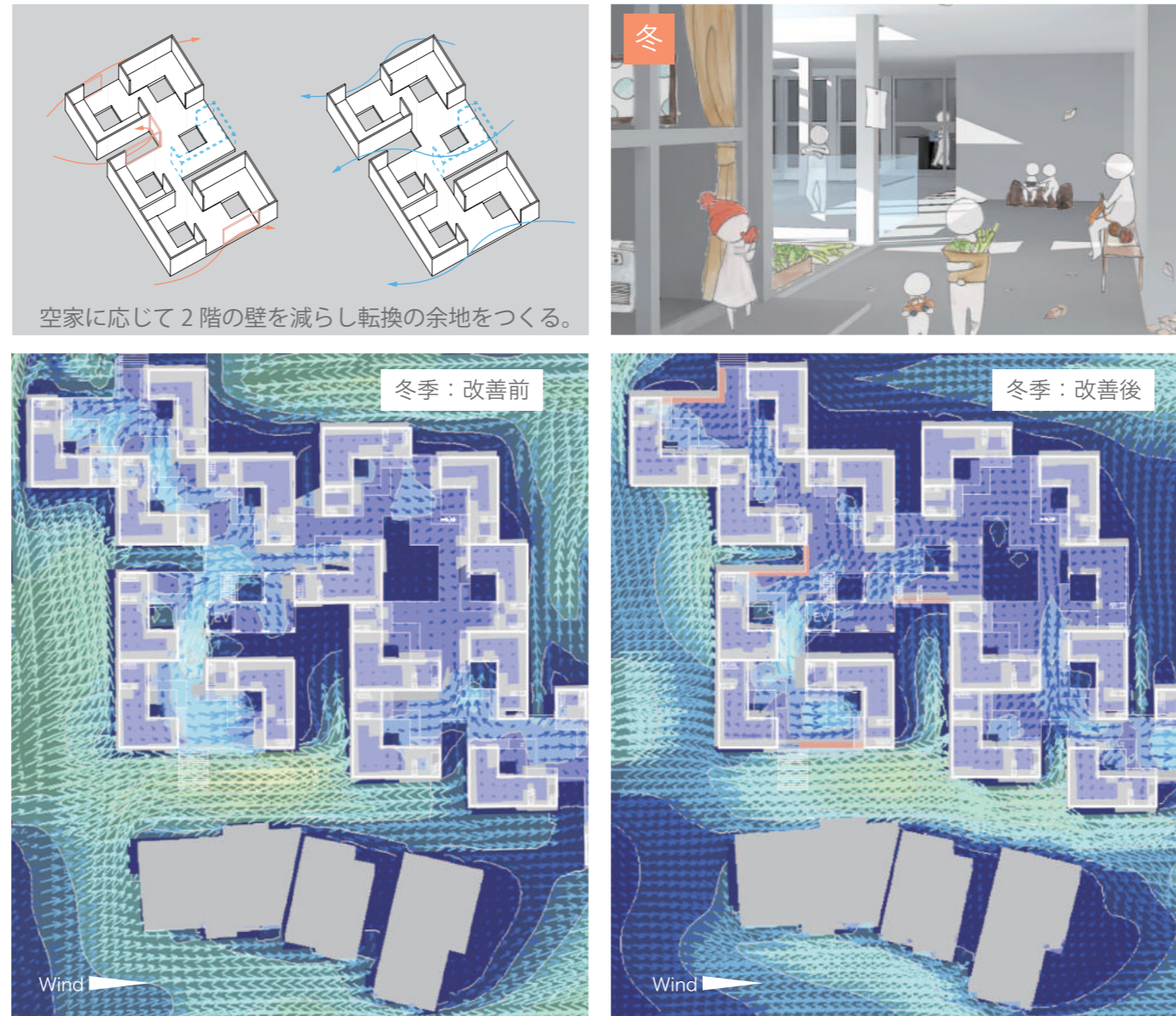
2階では一本の共有動線を挟み合い、外に延長した床に生活がしみます



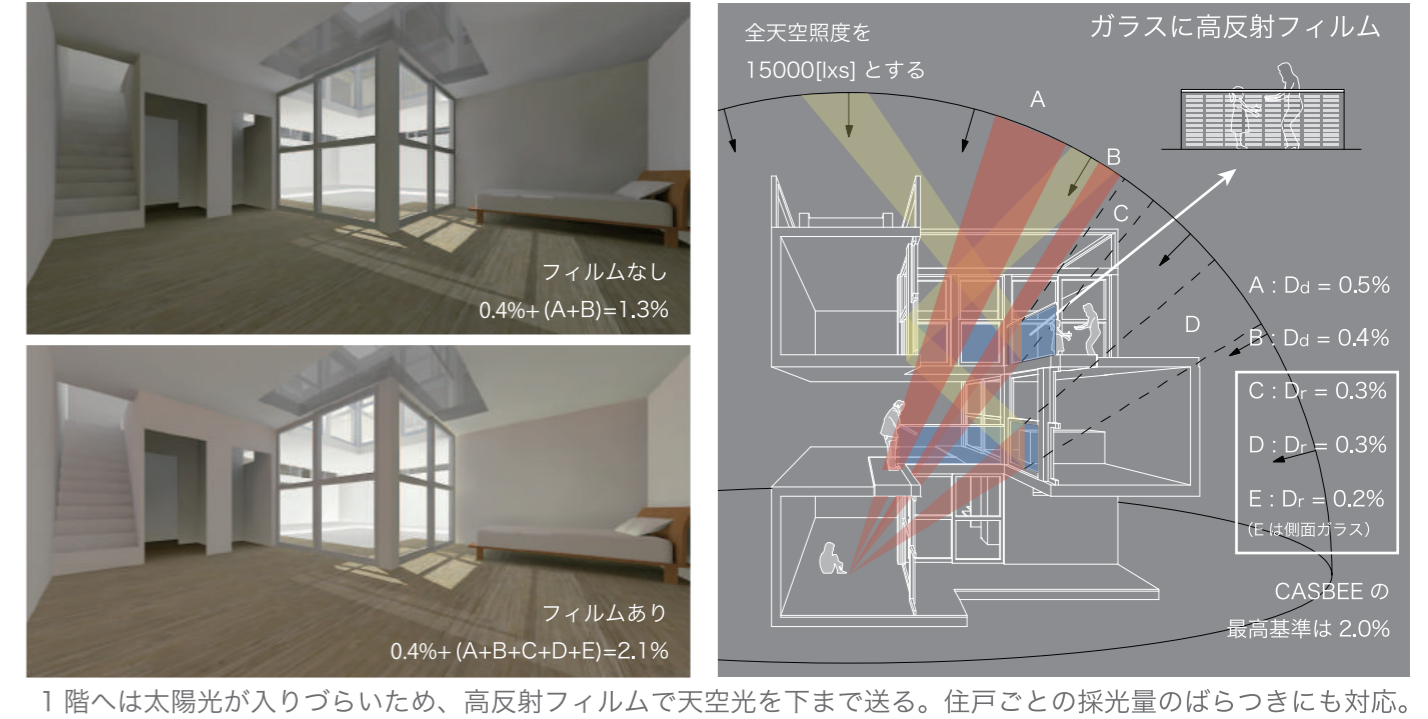
住民と周辺地域を結び役を管理人に任せ、また一般業務に加え快適性や地域交流の改善業務も行わせる。



### 可動壁で切り替え

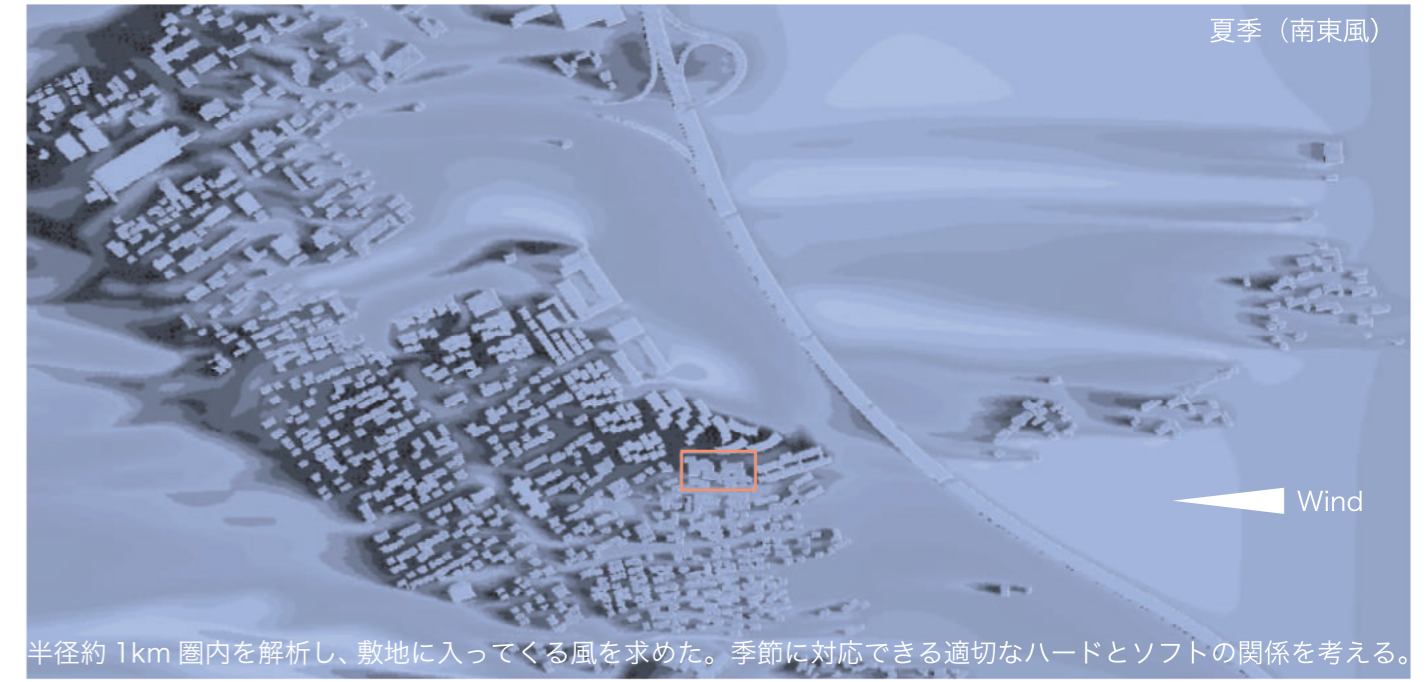


## Kerkythea



1階へは太陽光が入りづらいため、高反射フィルムで天空光を下まで送る。住戸ごとの採光量のばらつきにも対応。

## FrowDesigner

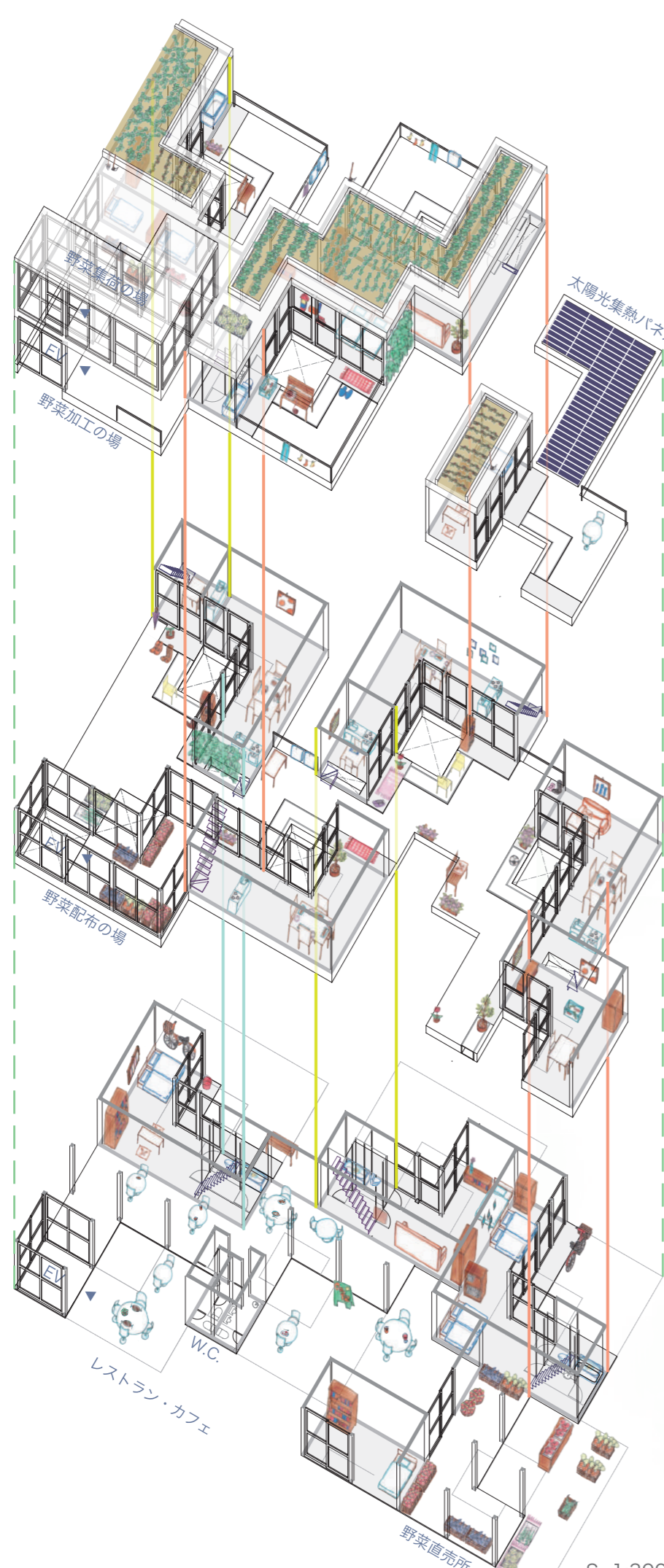


半径約1km 圏内を解析し、敷地に入ってくる風を求めた。季節に対応できる適切なハードとソフトの関係を考える。

3F: private

2F: common

1F: private



S=1:300